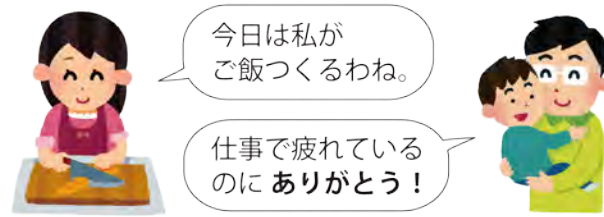


できること

私たちにできること

市民意識調査結果からも分かるように、まだまだ男性と女性が平等だという人は少ないようです。まずは、毎日の「当たり前」に「ありがとう」と言ってみましょう！

言われた方はもちろん、言った方も幸せな気分になれるはずです。



社会のなかで

仕事と生活の調和を目指して

市民意識調査では、「男女が共に仕事と生活の調和を実現していくために必要な条件」を聞いたところ、「女性が働く事への家庭や職場の理解と協力」と答えた人が半分を占めました。やはり、生活をする上で、仕事・職場は重要であり、その周りの人の協力が必要です。今回は、若木町にある(株)九州トリシマ代表取締役社長 堤正之氏と武雄市長のインタビューで、仕事と生活の調和「ワーク・ライフ・バランス」について考えます。

女性が生き生きと働き続けることができる社会をめざし、佐賀県で発足された「女性の活躍推進佐賀県会議」に賛同し会員登録しております。私どもの会社では、女性にも男性と同じ設計・生産部門の業務にも携わってもらっています。女性が働きやすい職場として、正社員・パートも含めた、産休・育休・子育て休暇制度があり既に活用されています。会社の業務の一つに品質・生産性を高めるための改善業務があります。それを効率的に進めるために「チーム活動」をしています。昨年度は女性だけの「研修改善チーム」を作り、研修室の雰囲気・展示方法・テキストの使いやすさ等、女性特有の目線で改善してもらい、素晴らしい成果をあげてくれました。働き方改革とは一言でいうと、働きやすい職場環境づくりと社員が仕事の中に働き甲斐を見つけている事であると考えます。従って社員が達成感・存在感・自己成長を感じられるように、「知識と経験・鋭い勘」を持った社員に育てることが大切です。そこで生まれる高い品質と改善が、時間的な余裕を作り、それを個人の興味や家庭・地域社会活動に使えるようになります。ワークライフバランスにも繋がると考えています。人生の三分の一は仕事の時間。仕事の中に楽しさを見い出すことも大切だと思います。

職場でやりがいや充実感をもって働き(ワーク)、同時に家庭や地域での役割を果たしながら(ライフ)、調和を保って健康に過ごす(バランス)ことは、すべての人に共通して大切なことです。私自身も、市役所の「イクボス」の一人として、また、二人の子を持つ父親として、部下のワーク・ライフ・バランスに気を配りつつ、自分自身も仕事と家庭とのバランスを取るように心掛けています(まだまだこれからですが...)。働く一人一人が、仕事も家庭ももつと充実した暮らしへ。市内企業・団体の皆さんも、ぜひ私たちと一緒に「イクボス宣言」してみませんか。

自分らしく生きる「ワーク・ライフ・バランス」を目指して



株式会社九州トリシマ 代表取締役社長 堤正之

武雄市役所では、今年2月に全ての管理職が「イクボス宣言」を行いました。「イクボス宣言」をきっかけに、私たちは、イクボス応援動画(武雄弁版)の作成や、育児・介護などの支援制度を活用する職員を応援するための勉強会の開催、それぞれの部署での仕事の進め方の見直しや職場の雰囲気づくりなどに取り組んでいます。また、三世代での子育てを支援するため、孫が産まれた時に祖父母が取得できる「孫の育児参加のための休暇(孫休暇)」制度も新たに作りました。職場でやりがいや充実感をもって働き(ワーク)、同時に家庭や地域での役割を果たしながら(ライフ)、調和を保って健康に過ごす(バランス)ことは、すべての人に共通して大切なことです。私自身も、市役所の「イクボス」の一人として、また、二人の子を持つ父親として、部下のワーク・ライフ・バランスに気を配りつつ、自分自身も仕事と家庭とのバランスを取るように心掛けています(まだまだこれからですが...)。働く一人一人が、仕事も家庭ももつと充実した暮らしへ。市内企業・団体の皆さんも、ぜひ私たちと一緒に「イクボス宣言」してみませんか。

武雄市役所では、今年2月に全ての管理職が「イクボス宣言」を行いました。「イクボス宣言」をきっかけに、私たちは、イクボス応援動画(武雄弁版)の作成や、育児・介護などの支援制度を活用する職員を応援するための勉強会の開催、それぞれの部署での仕事の進め方の見直しや職場の雰囲気づくりなどに取り組んでいます。また、三世代での子育てを支援するため、孫が産まれた時に祖父母が取得できる「孫の育児参加のための休暇(孫休暇)」制度も新たに作りました。職場でやりがいや充実感をもって働き(ワーク)、同時に家庭や地域での役割を果たしながら(ライフ)、調和を保って健康に過ごす(バランス)ことは、すべての人に共通して大切なことです。私自身も、市役所の「イクボス」の一人として、また、二人の子を持つ父親として、部下のワーク・ライフ・バランスに気を配りつつ、自分自身も仕事と家庭とのバランスを取るように心掛けています(まだまだこれからですが...)。働く一人一人が、仕事も家庭ももつと充実した暮らしへ。市内企業・団体の皆さんも、ぜひ私たちと一緒に「イクボス宣言」してみませんか。

ひとりの父親として市長として



武雄市長 小松 政

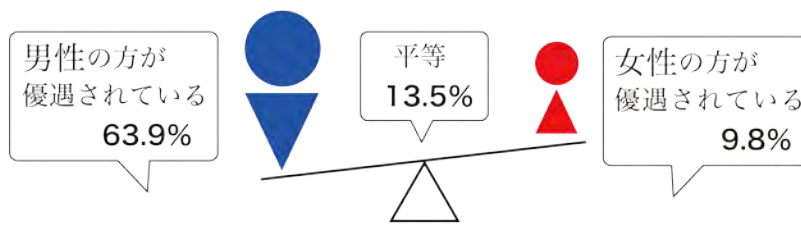
※「イクボス」=社員が仕事と子育て・介護などを両立できるよう支援し、組織としての結果も出しながら、自らも生活を楽しむことを目指す上司のことです。

“いま”を知る

調査結果からみる武雄の“いま”

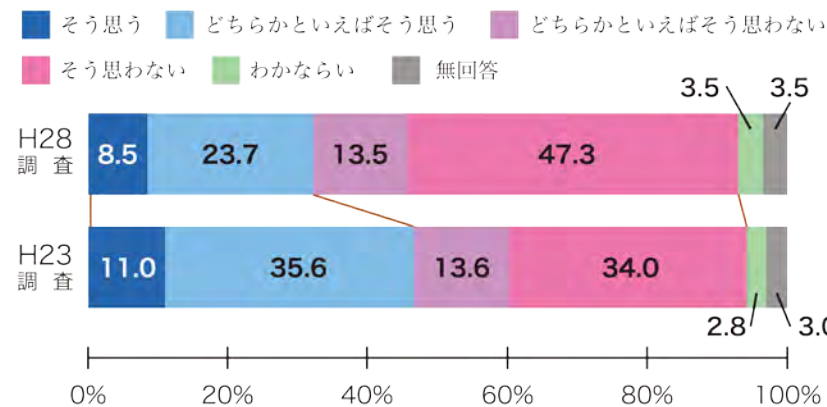
平成28年8月に武雄市民16歳以上の男女を対象に実施した「平成28年度男女共同参画社会づくりのための市民意識調査」の結果からみる武雄市の現状です。

■男性と女性、平等ですか？



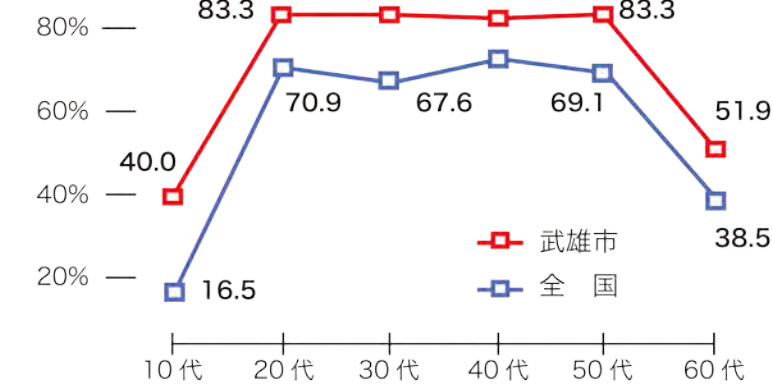
回答者が男性、女性に限らず、社会全体で「男性の方が優遇されている」と思っている人が多いという結果ができました。中でも「社会通念・慣習・しきたり」での平等感が男女とも一番低い結果となっています。

■夫は外で働き、妻は家庭を守るほうがよい？



5年前の調査より、質問に対して「妻は家庭を守るほうがよい」と考える人の数字が14.4%少なくなり、女性の社会進出への抵抗感が弱まっている事が読み取れます。

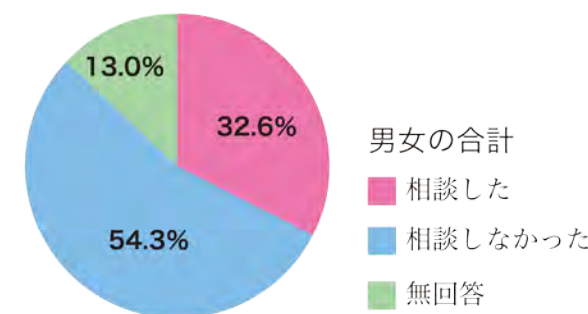
■女性の職業の有無



全国的には30代で就業率が低下する傾向があります。これは出産に伴う離職が原因だと言われています。それに対し、武雄市ではM字にはならず、出産しても働き続けるという状況が伺えます。

※全国=総務省「平成24年就業構造基本調査」より

■暴力(DV)を受けた時の相談の有無



全体で54.3%の人が「相談しなかった」と回答しています。男女別で見ると、DVを受けた男性の約7割の人が「相談しなかった」と回答しています。 ※DV(ドメスティックバイオレンス)=配偶者や恋人など親密な関係にある者、又はあった者から振るわれる身体・言葉・態度などによる暴力をいいます。

○その他の市民意識調査結果の詳細は、市ホームページに掲載しています。